

This is a newsletter from Shinshu University International Center (SUIC).
In case this email newsletter is unreadable, please try the online version
http://www.shinshu-u.ac.jp/institution/suic/upload/pdf/publications/suicnewsletter_vol47.pdf

Vol. 47 2014. 3. 14

◆◆◆
◆◆◆
信州大学国際交流センター ニュースレター
Shinshu University International Center (SUIC) Newsletter

◆◆◆
◆◆◆
発行：信州大学国際交流センター(SUIC)
<http://www.shinshu-u.ac.jp/institution/suic/>

[今号の目次]

- * ごあいさつ
- * 最近の出来事
- * 信大NOW No. 85
- * スタッフ近況報告 赤羽 正雄 先生 (国際交流センター長)
- * 生活ちょっとコラム

■□
□ ごあいさつ

みなさんこんにちは！

2月中旬、関東や中部の各地は大雪に見舞われました。雪には慣れているはずの信州でも、電車や高速道路がストップしたり、イベントが中止になるなど様々な被害がありました。

松本でも75cmの積雪があり、観測史上2番目に多い記録だそうです。昔、祖母から「カマキリが高いところに卵を産むと、その冬は雪が多い」と聞いたことがあります。実は、去年の秋に松本国際交流会館の植木の、地上から1mほどのところでカマキリの卵を見つけました。そのときは「まさかこんなところまで・・・。」と思っていたのですが・・・。
カマキリとおばあちゃんの智恵、おそるべし。

■□
□ 最近の出来事

★2013年度秋期「国際交流センター修了発表会」が開催されました

2014年2月4日(火)に、全学教育機構を会場に、「国際交流センター修了発表会」が開催されました。

この発表会は、信州大学で半年または1年の留学を終えて帰国する交換留学生、半年の日本語・日本学短期プログラムを終えて帰国する短期留学生、または半年の日本語研修コースを終えて信州大学の大学院に入る留学生や教員研修留学生が、学んだ日本語を用いて、自らが関心を持つテーマや故郷、専門などについて発表するものです。

今回はインドネシア、マレーシア、オランダ、イタリア、中国、韓国、タイ、ベトナム出身の32名の発表がありました。発表会には信州大学の教職員や学生をはじめ、一緒に日本語を学んだ留学生、留学中にお世話になった一般市民の方など約50人以上が参加し、活発な質疑応答も行われ、充実した発表会となりました。

詳しくはこちら

↓ ↓ ↓
<http://www.shinshu-u.ac.jp/institution/suic/current/events/2013-52.html>

★交換留学生、日本語・日本学短期留学生が信濃毎日新聞社塩尻製作センターを見学しました

国際交流センターで学ぶドイツ、オランダ、中国、台湾、韓国出身の交換留学生や日本語・日本学短期留学生達20人が、2014年2月5日に、「信濃毎日新聞社塩尻製作センター」を見学しました。

出発前に赤羽センター長から新聞の分類や新聞の作成について説明を受けた後、マイクロバスで新聞製作センターを訪れ、実際の新聞の製作過程を見学しました。日本の高い印刷技術やリサイクルの意識の高さに、留学生からは驚きの声があがりました。

国際交流センターでは、このような施設・企業見学を通して、留学生の日本社会理解の増進を図り、修了後の進路の参考とすることを目的として毎年実施しています。参加した留学生は、「次回も参加して、日本企業についてもっと知りたい」などと話してくれました。

詳しくはこちら

↓ ↓ ↓
<http://www.shinshu-u.ac.jp/institution/suic/current/events/post-236.html>

★教育学部 ソチパラリンピック 出場学生の壮行会を行いました

3月7日(金)から開催されているソチ冬季パラリンピックに出場する教育学部4年の山崎福太郎さんの壮行会が2月14日(金)に教育学部にて行われました。会場には、多くの同級生や教職員が集まりました。

山沢清人学長からは、「信州大学を代表して、名誉に思っている。子どもたちからの長い努力の成果として出場されることは、本当におめでたい。ご自分の目標を達成するべく頑張っていたいただきたい。」とエールが送られました。

詳しくはこちら

↓ ↓ ↓
<http://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/education/news/2014/02/1756899.html>

★信州の夢を載せて... 世界初LED可視光通信実験衛星「ぎんれい」打ち上げ成功

信州大学が県内企業と協力して開発した信州製超小型人工衛星「Shindai Sat (シンダイサット)」(愛称・ぎんれい)が2月28日午前3時37分、鹿児島県・種子島の宇宙航空研究開発機構(JAXA)種子島宇宙センターからH2Aロケット23号機で打ち上げられました。ぎんれいは地上400キロの上空を約1年間にわたって飛行。この期間中、世界初とされる超長距離の「可視光通信実験」を行う計画で、目に見える光(可視光)が新たな通信手段として活用できるか実証します。

実験開始後、気象条件などがそろえば、ぎんれいの光は肉眼でも観察可能。長野県上空を通過するぎんれいの光を県民が受信し、メッセージを受け取るイベントも企画されています。

詳しくはこちら

↓ ↓ ↓
<http://www.shinshu-u.ac.jp/topics/2014/03/led.html>

■ □ □ 信大NOW No. 85のご案内

信州大学のニュース、歴史や人にまつわる記事、イベントや公開講座の紹介、研究者の研究内容など、信州大学が良くわかる広報誌「信大NOW」最新号の目次を紹介します。

<No. 85>

○エコチル調査

3年間のリクルート修了へ
調査参加者2,300名突破!

- 地域と歩む。
[其の七]上田市と信州大学
 - ・軍手プロジェクト
 - ・蚕飼姫プロジェクト伝統産業上田紬で地域活性へ
 - ・AREC（浅間リサーチエクステンションセンター）
産学官・地域連携拠点のニューモデルとして高い評価を受ける
 - ・市民と共に創る手作り絵本「供創デザインラボ」
- 平成25年度 文化庁
「大学を活用した文化芸術推進事業」採択
「往来と創発」
対話と協働から生まれる信州型舞台芸術マネジメント教育プログラム
- 信州大学国際交流座談会
世界について語り合おう！「地球をまたいで」
～私たちの知りたい事、伝えたい事～信大留学経験者を囲む会
- 平成25年度JSPS頭脳循環を加速する
若手研究者戦略的海外派遣プログラム採択
イノベーション創出を加速させる進化型解探索フレームワークの
グローバル研究、キックオフ！ in France Paris
- TOPICS
「博士課程教育リーディングプログラム」のキックオフフォーラムを開催
- 信大キャンパスの「樹」シリーズ⑩
トウカエデ 上田キャンパス

全文は信州大学の公式Webサイト上でデジタルパンフレットとして公開
されていますので、ぜひご覧ください。↓ ↓ ↓
<http://www.shinshu-u.ac.jp/guidance/publication/#publication>

■□
□ スタッフ近況報告 赤羽 正雄 先生（国際交流センター長）

皆さんこんにちは。

国際交流センターの赤羽正雄です。久しぶりに近況報告をするのですが、
私は3月31日付けで信州大学を定年退職しますので、これが最後の報告と
なります。

私の専門は、電気工学・技術経営であるため、留学生の皆さんの日本語
の授業を担当することはありませんでした。主として大学の国際化に関わる
仕事をしてきました。皆さんの身近なところでは、大学間学術交流協定を
結ぶ大学の開拓を行い、皆さんが交換留学できるように協定を結んでしま
した。私が信州大学で国際交流に関することに従事するようになって6年半
たちますが、数えてみると32の大学と協定を結びました。“優れた研究者、
学生との交流を通じて相互に刺激を受け、国際的に活躍できる人材の育成と
研究レベルの高度化に資すること”が大学としての目標です。協定という
基盤の上に立って、皆さん方が有効に活用し、グローバルな人材になって
ほしいと期待しています。

ところで、定年についてですが、本学教員の場合、規定により65歳の誕
生日を迎えた次の3月31日に定年退職となります。定年制度というのは、就
業規則で定めた年齢（定年）になったら自動的に（一律に）雇用関係が終了
する制度で、定年により退職することを定年退職といいます。定年は企業に
よって違います。日本の多くの企業・公務員は60歳でしたが、現在は65歳に
徐々に引き上げていく傾向にあります。

中学の社会科の授業で、定年制度は、1800年代のドイツ・ビスマルク時代、
自分の政敵を追い出すのに制定したのが起源だと教わった記憶がかすかにあ

ります。しかし、日本では江戸時代に「のれんわけ」という制度（風習？）がありました。一定期間の奉公を終了した雇い人を独立させるもので、技能の伝承、系列化（本家、分家・・・）、雇用人のモチベーションアップなど、ビスマルクよりはかなりプラス思考の定年制度だったと思います。この伝統的な言葉「のれん」は、現在でも無形固定資産として貸借対照表に記載されるように“営業権”として生きています。

私が一時勤めていたアメリカでは、年齢を理由とした差別は連邦法により禁止されていましたので、軍人など一部を除けば基本的には定年制度はありませんでした。能力的な理由により解雇されない限り、何歳までも働くことができます。生き生きと働く熟練者もいましたし、“老害”らしき人もいました。皆さんの国ではどのようになっていますか？

個人ごとに状況は異なるとは思いますが、私にとって定年退職は、自由な時間が十分あり、精神的にもゆとりのある生活をしていけると心待ちにしていた節目です。

最後に、皆さんおよび皆さんのご家族のご健勝を祈念しております。

■□

□ 生活ちょっとコラム ～別れと出会いの季節～

春は、別れと出会いの季節です。退職される赤羽センター長、ほんとうにお世話になりました。ありがとうございました。

国際交流センターのプログラムを修了した留学生も、もうほとんどが帰国してしまいました。ついこの間出会ったばかりのような気がしていましたが、半年や1年は早いものですね。私は、日ごろ留学生の宿舎や国際交流のサポートをしていて、皆、（勉強はもちろんのことですが、）日本での生活を楽しんでだろうか、楽しい思い出をたくさん作って帰っていったらどうか、ということがとても気になります。帰国したみなさんは、信州大学でのさまざまな経験を大いに活かして、羽ばたいてほしいなと思います。

日本では、春の季節の別れや、新しい旅立ちの象徴として「桜」がよく使われ、桜を題材とした有名な歌も数多くあります。福山雅治の「桜坂」、コブクロの「桜」など皆さんご存じの曲もあるでしょう。森山直太朗の「さくら」は、学校の卒業式でも歌われることが多い名曲です。しかし信州では3月はまだ冬・・・（今週も雪が降りました・・・）桜の季節にはほど遠いので、子供のころは全くイメージできませんでした。でも大学（関東地方）の卒業式のとき、桜の花が満開でとても美しく、社会人としての新しい生活への期待に胸が高鳴ったことを覚えています。

いまは春休みでひっそりしているキャンパスも、あと半月もすれば元気な学生たちでいっぱいになります。そのころには雪も解け、あたたかい春の風に包まれていることでしょう。

次回のニュースレターでは、新しく迎えた留学生の話題などもお届けしたいと思います。

それでは、また。

●○○●○○●修了者データベース登録のお願い○○●○○●○○●

国際交流センターでは、留学生の帰国後のフォローアップの一環として、データベースの作成と活用をすすめています。まだこのフォームを提出されたことのない方は、ぜひ記入にご協力下さい。

このニュースレターの配信先メールアドレス変更もこちらからお願いします。

<http://www.shinshu-u.ac.jp/institution/suic/alumni/database/alumni-database.html>

●○○●○○●○○●○○●○○●○○●○○●○○●○○●○○●○○●○○●○○●○○●○○●

◆配信元：信州大学国際交流センター(SUIC) 文責：西牧

〒390-8621 長野県松本市旭3-1-1

Tel: 0263-37-3360 / Fax: 0263-37-2181

<http://www.shinshu-u.ac.jp/institution/suic/>

- ◆連絡先 : iad@shinshu-u.ac.jp
- *各種お問い合わせ
 - *配信停止希望
 - *メールアドレスの変更のご連絡
 - *情報掲載のご希望
 - *ご意見、ご感想
- など
-